



地  
學  
事  
始  
初編  
上

ル 2  
3105  
1





450  
67  
3

門 几 2  
3105  
卷 1



明 治 三 年 冬 季  
松山棟菴譯述

# 地學男女

尚古堂發兌

早稻田大學圖書館  
昭和27.3.5  
藏書

慶應義塾  
藏書

東京大学図書

## 地學事始序

墨子以「法」此は有知量知相分るれ故を  
歎せたり人學は之を初の理なり  
既より年の男子と云ふ自ら任るる國介  
より更に何等能くある故あり偶に其人  
を尼まば何まら美人以りれ併人より  
并せり概しそれを唐人史稱し船乗の  
米公喰へは概しそれを南京米と云ふ

地學事始序



甚しき事あるは天と天竺の別あり  
をいふは天竺の天竺若天の皆是日  
常の際差交ふ事あり似てもいふ其実は  
戸外にあり自ら居る所乃衛名を記を  
以隣家の主人をいふ其姓名をいふ  
事の二界ありありいふ事を知る人  
いふ事いふけんや其世知我教その本は  
何事や初より其学はこゝの罪あり既

その事ありや其事其事いふ事あり其有知  
其知を校する事あり其事三十里の差あり  
其事いふ事あり其事いふ事あり今此小冊子  
ハ地球の概畧なり其文辭鄙俚なり  
厭むる事あり其通俗を主として初巻めを  
て開見の端を採り日本以外は其國あり  
其事あり其事あり其事あり乃ち其事あり  
以て此書の第一巻なり其第二段なり其段の



如きも次々社中の翻譯より由る道より全  
成乃期よりより一學者若し此順序の  
始よりより進歩せる應集ハ岐路より進  
るよりより域より遠ることあらば吾社  
中乃志願行幸

明治三年 唐年 宛林

支那義塾社 謹啓

凡例

一 此書ハ亞米利加開版の大小地理書及歴史等  
を譯出する所なり但し原本ハ亞米利加  
洲と開卷に載るもども今其体裁と改て始  
亞細亞洲と記するものハ近きより漸く以て遠  
き不及ボ一務て幼童の想像ハ入易からん  
為なり  
一 地名人名ハ既ハ漢譯のれもの多しやハ一  
も漢韻不通せざるバ其譯字と記をも益



故は此書中ふハ勉て和韻の近きものを探て  
 字と填せむを但一歐羅巴國名の如き既に在る  
 の熟知せざるのハ必しも之と改む  
 一英國の一里ハ我十四町四十間強ふ當り地  
 學家の里法ハ稍長く緯度一度の六十分一即  
 ち我十六町弱ふ當り又彼の一時ハ昼夜二十  
 四かの一即ち我春秋分の半時ふ同ト  
 一物の數ハ一十百千萬十萬百萬千萬一億十億  
 と十倍づくの位あり計るなり

地學事始目次

卷の一

- 世界の状と在界の動く事
- 世界外面の廣袤
- 世界の區別並に人種の事
- 亞細亞洲
- 支那帝國
- 亞細亞魯西亞



印度

尾留知須丹

荒火屋

亞細亞土留古

邊番社

土留喜須丹

阿美賀仁須丹

卷の二

歐羅巴洲

英吉利王國

能留英王國

瑞典王國

魯西亞帝國

土留古帝國

希臘王國

澳地利

伊太里王國

佛蘭西帝國



西班牙王國

葡萄牙王國

白耳義王國

和蘭王國

普魯士王國

噠馬王國

北日耳曼列國

南日耳曼列國

瑞西共和國

卷之三

亞非利加洲

馬留馬里伊

衛士府都王國

阿彌志仁屋

東亞非利加

南亞非利加

西亞非利加

中亞非利加

楚三義原茂  
比五林田獵  
比段根名呂爾加不天利彌  
尾宗瀨銀古蘇比楚  
屋越賀理尼加不天利彌  
宮部發不田義  
佐利天利獵原  
原屋尸弥軒茂  
地毛  
屋武



北亞米利加洲

魯西亞米利加

英吉利亞米利加

合衆國

女喜志古

中亞米利加

南亞米利加洲

古論備屋

部根重良

五井梁

武良死帝國

宇柳貝

良富羅多

巴多吳仁屋

池鯉

保里備屋

平柳

赤道國



地球圖



地理學事始目次終

巴羅貝  
 大洋洲  
 波蘭西亞  
 澳大利西亞  
 馬來西亞

地理學事始  
 目次



球半西



球半東





地學事始卷の一

慶應義塾同社 松山棟菴 譯述

世界の状と世界の動く事

世界ハ遊星と唱ふる星の一ふして一年も一回  
日輪の周圍と廻るものか其状ハ平坦く見  
ども實ハ橙子の如き圓き球なれば世は之を地  
球といふ世界は圓き證據ハ様々かきと今其一  
ニと擧て虚誕からざりと證せん船と陸地は衆



地學事始 卷の一



寄るに最初ハ唯山々の巔の目眼入と岸近  
くかれば山々の麓現る出るありおれ全く海  
面の堆き小腋もきたるふりらどや又北ウ或ハ  
南ヲ向ひ遠く隔るる國々へ行つた船の方  
向ひ夜中空と仰ぎ見ば此ヲ覺かき星を見  
一艦の方へ向ひおバ以前見馴し星の漸々消  
隠ると見送るる此又地面の圓き故あつどや  
又月食は時月の面お映るる影ハ即ち世界の影  
おふおいつも圓く見るとや

世界ハ二様の運轉を地軸と周て動く日  
々の私轉といひ日輪の周圍と廻ると年々の公  
轉といふ但し地軸とハ赤道の正中と南北は通  
るたる線といふお色ども獨樂の心棒の如きも  
の世界を貫くおゆは唯斯る線ゆくと想像を  
するやかを彼赤道黄道子午線の類も皆之は同  
ト扱世界ハ彼地軸と心と一二十四時の間は西  
を東に向ひ一度の私轉をか一之ガ為晝夜の  
分とかも又日輪の周圍と一周をハ所謂公轉



小して一年の久き以費一稍時令の移を換とふ  
るなり

世界外面の廣袤

世界外面の一里四方と一坪と立て其數九二億  
あり此坪數の内九四分の一ハ陸地あり即ち五  
千萬方里の廣を残り四分の三ハ海面なり  
一億五千萬方里の割合とあり又世界の北半球  
ハ陸地の多きものと南半球ハ三倍一東半球ハ西  
半球ハ二倍半を故に赤道ハ西南小陸少く東

北ハ陸多きものと知るべき世界の水陸其状  
ら様々あり地理學者之と分別し陸地の方小  
大陸嶋半嶋地岬山岡平地谷等の名稱より水  
海の方ハ大洋海灣港海峽遠淺湖河等の名稱の  
右の如く水陸の状種々あり分るべき固く  
人力は由て然る小なり皆造物者の力かれば  
之と天然の分界とハいふ又世界の面ハ人工分  
界の皇帝國王國郡縣里等の唱是あり之を人  
間政事上の分界といふ



地形風土の模様と學ぶるハ先地圖と地球儀と  
 事と始むべし地圖ハ世界の一部分と示し或  
 ハその全圖と畫くゆを地球儀とハ木又ハ外の  
 品物もて球と作て世界外面の全景と示すもの



ありさす地圖の面ハ種々の線と引き赤道子  
 午線平行線冬至線夏至線兩極圈等の名稱あり  
 但し赤道の南北は引おれ横線と緯線とつひ子  
 午線の左右は引おる縦線と經線とつひ子  
 云る如く世界の面ハ事實此等の線ありおれ  
 此等の線と引くものハ地理學と學ぶの便と  
 あり

世界の區別並に人種の事

世界の陸地ハ大洋は隔くらを分て三の大陸







是かこ茲お此人種の古き昔一と原ふ一の奇



談り太古の時當りてアダ  
ムイブと名る夫婦のまのり  
てイデンといへり美麗なる花  
園の中お住居セীগ此花園ハ



亞細亞洲のユフレイツと云る河は近く風景い

と面白き溪谷の中をぞめりも却説アダムイ

ブハ廣き世界中は唯二人のまふまど此頃ハ

神の往來ゆを一人のまのを淋くも思はん暮!

ありと云ふ竟はケインエビルセスと云る三人

の子と設け連綿蕃殖し數百年の後ハユフ

レイツ河の近邊に住居し都府村落を分ち繁昌

セーラども此子孫等ハ遂に人道の常を忘る其

行凶暴惡を成しカバ神の憤を小由て霖雨六月



打續き洪水天ヲ漲うきの勢いきほひあり人種悉く絶たぎけ  
るガ「ノア」と云いる人のこハ兼かみくしを神の教と守  
るけりゆ人此度このたびも神託しんたくを受け大洪水おほいづみの来きるを  
知しる豫あきめ「アーク」といふ大船おほいぶねを作つくり一族いちぢくと始はじめ  
種々の禽獸ちゆうじゆを提ひきへ船ふねに乗のり居ゐるゆ人全世界ぜんせかいの  
洪水こうすいも羅ららば悉しつくの人種じんしゆハ絶たぎるも「ノア」  
の一族命いちぢくのみことを墜おちせりのお「蓋けい」斯かくる事件じけんハ大古おほいふる  
はあてめて「アダム」「イブ」の生うまへハ今いまより六千ろくせん  
年ねん以前いぜんより「ノア」以前いぜんの人民じんみんハ唯ただ

劣せつ小亞細亞洲せうせうせうの一部いちぶは住すりありて歐羅巴亞  
非利加ふりか及び亞米利加あみりかなどハ大洪水おほいづみ以前いぜんより人  
の住居すまひ「エドム」といふ「ノア」の一族いちぢくハ洪水退こうすいひき  
却かへの後のち大船おほいぶねよりいであつて再びまた世界人民せかいじんみんの曩祖なかつうと  
なり他ほかの禽獸ちゆうじゆも追々おひ／＼繁殖はんじやくして數世かずせいの後のち廣ひろく萬  
國こくヲ布ふくと云いふ

亞細亞洲あしやあしやハ世界六大洲せかいだいろくしゆの一いちありて東大陸とうたいろくの東



方より其南北の長さハ亞細亞洲の東北より  
 ベーリングの海峡より荒火屋國のバベルマン  
 デブの海峡に到るまで大約六千七百里東西の  
 幅ハ支那國の南東端より魯西亞の宇良留山  
 まで到るまで三千六百里あり一里四方の坪數ハ  
 一千五百八十萬人口六億三千五百萬あり又亞  
 細亞洲の北と北西の土地ハ空漠なる平地あり  
 ども中央の國々ハテールブルランドとて在る臺  
 と唱ふる地面多く山脈大抵東西より連る江河の

數歐羅巴亞非利加より多しといふ亞細亞洲の  
 住民ハ種類小三の異りあり即ち高加索人種蒙  
 古人種馬來人種是れを但し院土須丹人荒火屋  
 人及び邊留社人ハ大抵高加索人種にして支那  
 韃靼人ハ皆蒙古人種あり  
 我日本の長崎より西の方海上九千三百里と隔  
 て支那と云ふ大國あり支那國の北ハ亞細亞  
 魯西亞とて更ニ大なる國あり又支那の南國ハ  
 最も東ハ安南次ハ暹羅又次ハ尾留滿其西ハ



院土須丹あり之と印度諸國といふ此諸國を尚  
 西に進りバ尾留知須丹其南の海峡と渡もバ荒  
 火屋國あり荒火屋の西ハ紅海といふ海ありて亞  
 細亞洲と亞非利加洲との界あり紅海と北へ回  
 るバ亞細亞土留古ありて其北を歐羅巴魯西亞  
 と云ふ此より折る東へ向へバ邊留社國其東ハ土  
 留喜須丹及び阿芙蓉仁須丹と云國ありて再び院  
 土須丹と支那との界あり右の次第と逐て先  
 支那國より始め亞細亞洲各國の地形風俗と左

記載

支那帝國 地面五百萬方里  
 支那帝國ハ地面五百萬方里



丹蒙古滿洲及び青海と約めて鞏固ともいふ  
 此鞏固ハ大抵山脉ありて界畫せらるる地あり  
 北部に住する人ハ其暮一方あり種々の風儀あり蒙  
 餘る本支那本國支那土留喜須丹蒙  
 古滿洲高麗西藏青海の如き數國と  
 總稱されしものあり又支那土留喜須

九



古人杯ハ天幕と家と一春ハ天幕を携て北地  
 一行き秋ハハす南一歸て一年の間ハ十回も  
 十五回も其住所と移る所を家畜ハ牛馬駱駝羊  
 野牛の類なり  
 高麗朝ハ支那帝國の一部なれど實ハ一箇の獨  
 立王國なりさハ云ど其王國內ハ權を振つども  
 年々支那帝不貢税を贈と見せバ眞の獨立王國  
 とも云ひ難し其都とキンクキタラといひ國王  
 の住所なり

支那帝國と唱ふもの東南ハ即ち支那本國ハ  
 して清朝所領の一部なり其地面ハ佛蘭西全國  
 ハ六倍もの程あり土地ハ高低多く山岡の連を  
 間ハ大抵谷川の続きなりされども北東の  
 部ハ廣大の平地ありて五穀よく登りしゆ  
 此國ハ地性天然不肥さる不加一人亦耕作力  
 と用るの風あり北の方ハ氣候甚ど寒きとも  
 南ハ暖和人不宜し産物中最も名高きハ茶あり  
 多く産するハ米なり甘蔗綿烟草大黃藍漆の木



樟木、檀肉、桂等ハ各地の野畑園の中あり又養蠶のより桑樹の植付最も多し支那人ハ本来蒙古人種ありて耕作と製造とを業とせられども亦國內海濱とも交易頗る繁昌せし此國の街道ハ皆より廣うらさるゆへ大なる馬車の通ふハ不便利あり故に旅行するも亦も交易は出掛も多しハ舟ありて江河と運河とを通ふはとくありて即ち北京より杭州府まで九と七百里の間堀破の運河あり之と御溝河といひ

其名世も高し支那人ハ絹綿羅紗並土器の製造は甚だ名高し象牙、鼈甲、真珠の彫物と巧あり其他縫箔、漆物等の術あり長ドをとりし北京ハ支那國の首府ありてハイホ河小道其土地極ハ砂の平地あり萬里の長城あり九と六十里も南の方ありて東の海よりハ百里許も隔たり元來二の都府相鄰せるありのありて二府共ハ高城にて圍ミ二分し支那人と韃靼人の住所とありて支那帝の宮殿ハ韃靼府の内あり



北京の塙ハ瓦あて築き  
 其高ハ殆ど百尺許り  
 聳るるゆへ市中の人  
 家ハ塙の外よりハ見  
 難し其厚さ亦甚ど  
 厚きゆへ騎馬の番兵  
 ハ此塙の上と走り  
 て全都府の周圍と巡  
 邏するも又塙の間



小九の大門のりく大理石といふ奇麗なる石も  
 て圓天井の状とあり其高さ実ハ驚く小餘り  
 萬里の長城ハ二千年以前秦の始皇帝の築くも  
 のありて其高ハ四十五尺小一十八尺の厚さあり  
 其長さハ山と越谷と且して九千五百里の間  
 小連綿せし此長城も今ハ大破小及べども猶其  
 遺構と見るといふ  
 南京ハ揚子江の右岸ありて絹紙或ハ綿と多  
 く製造も又揚子江口の南に當りて上海といふ

地理書  
 卷之二



港の交易繁昌の地ありて我日本の長崎と相對  
一海上三百里あり

廣東府ハ廣東河の左岸ニ在テ其河口より七十  
里許の上ふりを此處ハ交易の場所ありて茶の高  
ひ最も多し又香港ハ廣東より南ニ當る嶋あり  
近年英國の領分となりて交易繁昌の地トハあり

西藏ハ支那帝國の管轄内ありて亞細亞洲の  
中央を占り支那本國の西ニ當る國あり氣候寒

く人民多くハ羊と野牛と養ふと業ト此國の  
山中ハモスクスシニアトて鹿ハ似て角カキ獸

沢山あり此獸の牡ハ麝香と生じといふ  
亞細亞洲西亜トハ即チ亞細亞洲中の魯西亞領

と云ふを其地を分て二部トシ其一ハ甚ど小  
く裏海と黒海との間ニあり地小く之と淨留

寺屋といひ其二ハ甚ど大きく之と志邊里屋  
いふ



志邊里屋ハ大なる國ありて本國を歐羅巴魯西亞  
の藩屬たり其國ハ亞細亞大陸の北地全部と占  
り東西の長さ三千六百里南北の幅ハ千八百里  
許の地面ハ大なる平地ありて北氷洋に向て傾  
くゆく多くの江河皆北氷洋に向て流る此國ハ  
氣候最も寒きゆへ五穀も登ふき荒漠の土地か  
ら唯沢山ハ金銀獸皮と産るゆへ其地の人民は  
の氣候の寒きゆへ厭ふば斯る淋しき地あり  
と過せし此國ハ蒸氣車の備もかく旅行の便

利甚と惡し荷物と運送も劣り河船の便は  
この此土の人の韃靼人の子孫と歐羅巴魯西  
亞を追放せし人も多くハ鑛と鑿て獸  
と獵を以て生を営りて東志邊里屋の伊留又須  
喜といはる都府ハ軍用の為魯西亞帝は毛  
織製造の場所と建て又鑛山の河の地ハ金銀  
の鑄造所とも建て西志邊里屋の戸保留須喜と  
いはる都府ハ革及び石鹼杯の製造所あり他  
國ハ出た品ハ唯獸皮金銀銅鍍の類のみ



印度

印度ハ即ち往昔の天竺國ホシテ亞細亞洲の南部  
 部不當里大あつ二半嶋を合せ云ものあり其  
 と遙東印度といひ其二と院土須丹といふ  
 遙東印度ハ北西藏不界一東支那本國ハ鄰里一  
 南支那海不臨ミ西方ハ辨輕の灣と北院土須丹  
 の平地不界を地面九十萬方里ホシテ人員二  
 千二百萬あり蓋一此半嶋ハ本暹羅安南尾留滿  
 の三國と總稱せ給ものなれど此外猶馬來の半

鳴と英國所領の「チナセリユム」とい一つ細長き國  
 あり遙東印度の地面ハ長き谷川と山脉の繞  
 て界と分ち風土種々ハ分ちたれども天然富肥  
 の地性ホモ氣候ハ暑く一々濕氣を含めども人  
 一害あり一此國ハ樹林沢山ホシテ頗る珍木  
 と産ものあり画の具又ハ薰物杯の類此地  
 出りその多一主は産ものハ米あれど綿藍烟草  
 甘蔗等も多し産一大理石琥珀碧玉等此國の各  
 地より又象犀虎の如き猛獸ハ甚多一此國



の住民ハ馬來半嶋を除く外ハ皆院土須丹人及  
 ビ支那人と類似セテ耕作ハ骨ヲ折ジモ其術  
 殊ニ巧アリ住家ハ竹又ハ蓆アテ作テ屋根ハ  
 藁或ハ葭アテふき地面ハ方々數尺の高ヨリ  
 たるのミ全体亞細亞洲の風俗ナク此國ニても  
 骨の折る仕事ハ婦人の務る所ナク未ダ  
 文明の化と被らざり國あり安南の都ト「ヒュウ」ト  
 ヲ暹羅の都ト「バン」ユクト「ウ」尾留滿の都ト  
 マンテレイトイフ

院土須丹ハ前小ヨリ一ノ如ク二半嶋の西の方  
 と「ウ」地面の廣さハ全歐羅巴洲の三分一ハ居  
 人口一億三千萬ヲモ此國ト大別ニモバ即チ  
 英國所領の部ト英國の保護を受る部ト獨立の  
 部ト都合三の別アリ但一英國所領の部ハ辨輕  
 米都良須本買の三州アテテ萬事英國の支配ト  
 受リヤリ英國の保護を受る部ハ院土須丹中央  
 の部アテ英國此保護と頼ミ且其支配を受る部  
 ともゆき全ク英國ハ服従セズ猶自國舊來の



政體と存せし又獨立の部ハ子ポールブリタン  
といふ二の屬ありて北極里山の南側あり其  
民國王ハ屬一支配を受りその右の外佛蘭  
西及び葡萄牙ハ附屬せし屬郡あり此州郡ハ獨  
立の屬と除けば院土須丹の全國ハ英國の  
藩屬なり

院土須丹の北部ハ大なる平地あり正中と南方  
ハ多くの山と東に高さ平地あり又西海岸ハ  
高くして險し東海岸ハ地面低き砂濱不

是南方中央の氣候ハ甚だ暑く一年二季の別ら  
りて半年ハ雨霧多く半年ハ早魃多し且常ハ颯  
風として恐しき大風の吹  
惠ふ此國の各地ハ  
あり森林の中ハ  
猛獸多く鳥昆虫の  
類も甚だ沢山あり  
時々螢の類夥しく木  
小集りあり四面





光明と放ち其状夜光の珠りて築立てたる臺  
々思ひ又菓物ハ最も沢山あり其種類も百種  
あり假令ハ椰子、石榴、佛手、柑、棗、多麻、林度の類か  
り藍阿片ハ各地ハ産し金剛石其他貴き寶石も  
亦此國の物産あり住民ハ七分の六まで自國の  
人あり之を「ヒンズ」スといふ其他ハ皆他國よ  
り來るる居留人あり人民の專業ハ耕作ありと  
其仕方殊ニ巧なり又綿、真綿、或ハカシメル  
ヤウルとて婦人の服不用ゆる毛織ありと専ら製

造り他國に賣出するのハ藍阿片、綿、毛、絹、糸、藥、草、  
薰物、寶石等ありて交易ハ頗る盛なり  
此國通行の街道ハ狭く大車と用ゆるの便利か  
し然きども近來川蒸氣船と用ひ又輕骨田とい  
ふ辨輕の首府より「ヘナルス」といふ都の近邊  
で九五百里の間蒸氣車の通ひあり  
英國所領の辨輕島の首府と輕骨田といひ交易  
繁昌の地あり  
院土須丹の南ハ西論と云嶋あり英國の領介か



て五穀豊熟一肉桂ハ名産あり此嶋ハ釋迦如来  
誕生の地といふ

尾留知須丹 地面十五萬方里  
人民二百萬

尾雷知須丹ハ亞細亞洲の南方中一と前子舉一

院土須丹と邊雷社との間小河々國あり地面ハ

高低多く且沙漠とて廣き砂地何々中人水も

甚ど不自由あり田地ハ都て荒地多く山間の氣

候ハ涼一けれど平地と砂漠とハ暑さ堪ぐ一

此國東北の平地ハ低くして水の手りよく米甘

蔗煙草藍等を産す

此國の住民ハ野牛又ハ駱駝の毛をりて製せり

粗造の天幕を覆ひ農業ホカを用ゆり少一

山中ハ住ふものハ野牛其他食料の獸と畜ひ以

て一家の命を維ぶ又數十人隊を組で遠方へ

交易ホ出棧る風俗あり

此國の首府を毛列土といひ海面より六千尺も

高き平地ホ建てり酋長ハ此都ホ住居る色ど威

力甚ど強り故ハ國民多くハ其命を拒ミ自



由小生と送ると云ふ

荒火屋 地面八十三萬五千方里

荒火屋國ハ亞細亞洲の西南小河をて亞細亞土

留古の南小當半島あり此國の海岸ハ総て依

き土地あれど内國ハ高さ平地多し其平地も

過半河もあれ又林もあき沙漠あり只颯々吹

出の泉有りて河の用不代りといふ又海岸の山

谷ハ土地隨分膏腴あり氣候ハ酷暑地面の

乾きくハ壘界中ハ比類あり産物ハ扁桃

橄欖多麻林度護謨其他藥草等あり殊ハ珈琲を

産する多し又馬と駱駝ハ荒火屋の産を以て

壘界第一と馬を畜ふるハ大麥豆の類を用也

と云ふ

此國の住民小營生の方二様あり即ち相集りて

都府村落を成るものあり又散りて沙漠の中ハ住



三月の雨を蓋し沙漠の中  
小住するものハ數人一組と  
あり各天幕と家と一水草



地志 卷之二  
 と逐て住所と移し主長の命は服従せしむ又西方  
 の地ハ亜細亞土留古の支配と受り月の所を  
 荒火屋の砂漠と通ふ旅人ハ必だ其地の人と案  
 内者不雇ひ途中の護と為ざれば盗難不羅を一  
 命と失ふの懼り蓋し砂漠の中ハ十二里々  
 又ハ十四里の間不定りたる止宿場を夜に入  
 バ旅人此止宿場に入ると天幕を張る駱駝の荷と  
 解き其日の疲と休ふあり荒火屋あり旅行の便  
 利ハ唯此類あり荒火屋人ハ全く製造の蓋

たるを知り他國不出る品ハ大東護謨沒藥芦荟  
 の如き天然の藥種不て玳瑁の輸出最も盛んか  
 亞細亞土留古地面四十三萬七千方里  
 亞細亞土留古ハ黒海と荒火屋との間ハ大  
 國ハ地面ハ大抵岳と臺と唱ふる所のあり山  
 脈多く地性ハ一般ハ豊腴なり山手の氣候ハ寒  
 く濕氣を含めざる平地と谷間の如きハ暖和不  
 して人ハ快く五穀綿玳瑁煙草其他百種の菓



物を産と此國の人民ハ耕作ホカと用ホカと  
 少く毛種シヤウルス革等と製一他國ヲ輸出ス  
 右の外絹糸藥草干葡萄綿野牛毛蘇枋の類ハ  
 ども商賣甚ど盛あり  
 此國の内部と且も南東の方邊留社の灣ホ流  
 二の河ハ西とユフレイツ河といハ東を  
 チダリス河といふ此二河の間ハ紀元前二千二  
 百二十一年亞叙利屋帝國勃興の場所ホ一之  
 と世界帝國の始りト又此國の東北又當りて

高加索といハ山ハ所謂高加索人種ハ此山間  
 邊留社ハ地面四百十五萬方里  
 邊留社ハ裏海の南土留古の東ホ當り其内部ハ  
 高き平地マて砂漠多一土ホ臺ト唱ふる地面ホ  
 ハ五穀の登惡ホれど谷々ハ地味の肥た場所  
 河ホ北の部ハ氣候冷ホ一南部ハ太ど暑一麻  
 綿米糸煙草菓物藥草護謨等と産  
 邊留社の政治ハ亞細亞東方の諸國の如く立君



特裁と称せらるものか王國の威權最も盛なり  
て刑賞上一人の意に任せ人民の家財田畑も王  
の意に慙ておれば之を取上る風あり此國の首  
府と天邊蘭と名け國王の居所とあり

土留喜須丹 地面四十二萬方里

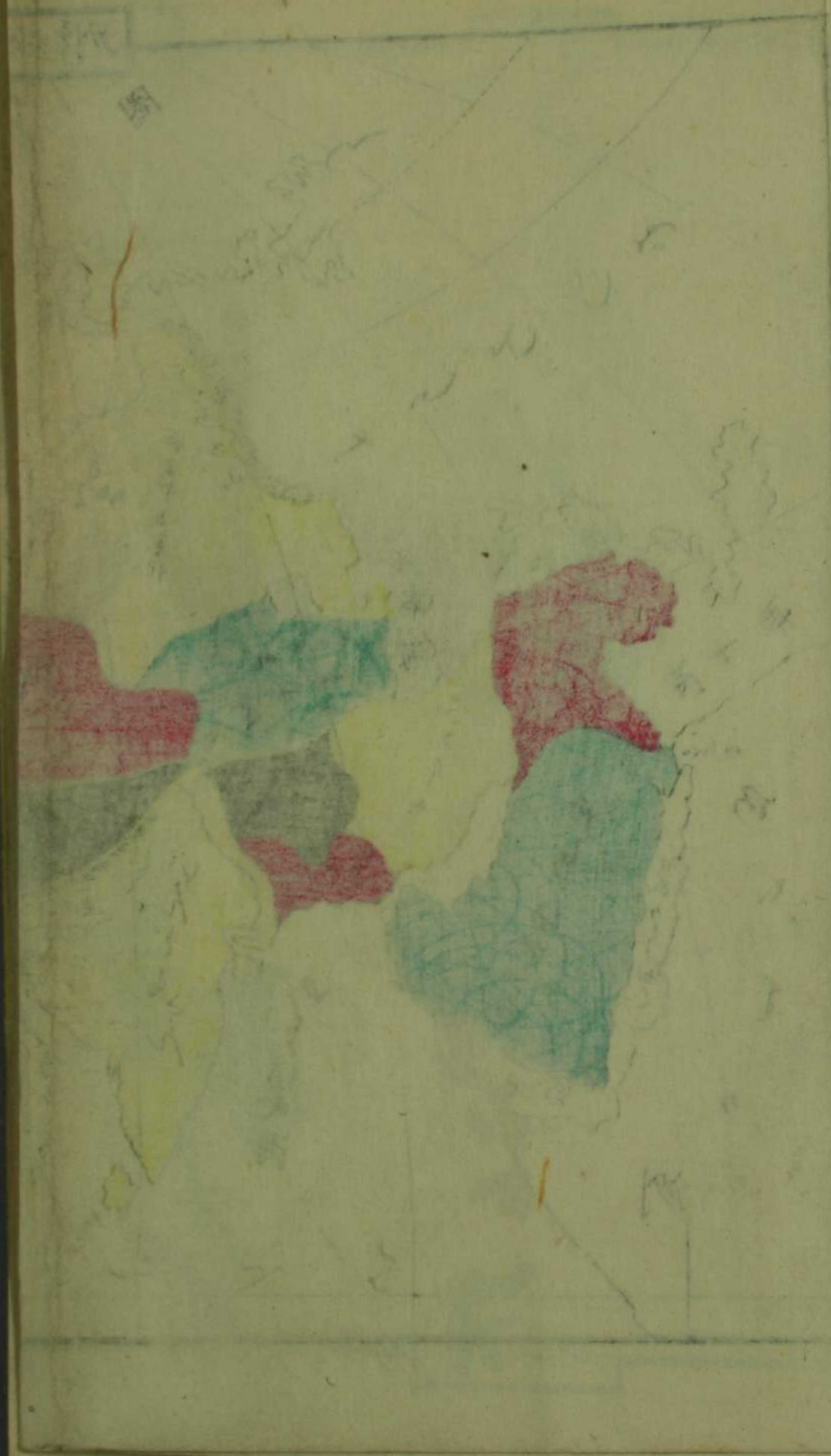
土留喜須丹ハ支那帝國の西邊留社と裏海との  
東より國あり別不羈韃靼とも名く地性ハ  
都て宜しつ唯東と東南の地ハ稍膏腴あり  
其の氣候ハ太ど暑く冬ハ太ど寒し綿絹糸獸毛

五穀菓實と産し牧羊殊小盛あり此國の人民ハ  
牛羊と牧飼し或ハ山野の獵と業とあり其の多  
く又隊と組で南の方阿美賀仁須丹と越て印度  
地方へ交易せらるり也

阿美賀仁須丹 地面二十二萬五千方里

阿美賀仁須丹ハ亞細亞洲の内國にして邊留知  
須丹の北邊留社の東より地面ハ山多く谷間  
もハ天然富肥の土地多し氣候ハ土留喜須丹の  
如く寒暑の極度不至る人民多くハ牧羊を





地學事始卷の一終  
 業と煙草の名産ゆを此國の首府と加比由留  
 し云ふ





洲亞細亞



地學事始卷の一終





